

いつも一緒 富山のペットたち

冬になると、空気が乾燥して鼻の粘膜が敏感になるため、ペットもくしゃみや鼻水が出ることも多くなります。あなたのペットがくしゃみをしたり、鼻水を出したりすると「風邪かしら？」と思われるに違いありません。

しかし、くしゃみや鼻水は、犬ジステンパー、犬パラインフルエンザウイルス感染症、猫伝染性鼻気管炎、猫カリシウィルス感染症など、風邪の症状を伴った感染性疾患が原因の場合があります。それ以外にも、鼻炎や副鼻腔炎などの呼吸器系の疾患、口蓋裂、鼻腔内異物、腫瘍、アレルギーなどが原因として挙げられます。



泉沢動物病院長
(氷見市柳田)

泉沢 洋一

くしゃみ・鼻水

「すぐに動物病院へ連れて行かなければ」と思われる前に、ペットをよく観察してください。例えば、くしゃみは単発的か間欠的か、花粉や喫煙、化学薬品などの誘発する原因がないか。鼻水は鼻の片側だけから出ているのか、それとも両側からなのか、透明か黄色か、血が混じっているのかなどで

す。
くしゃみが単発的だったり誘発する原因があったりする場合で、元気があるのなら様子を見てもよいでしょう。しかし、単発的であっても、食欲や元気がなかったり、鼻水が片側からだけで膿性または血液が混じっていたりするときは、鼻腔内の異物や腫瘍のケースが疑われますので、動物病院での診察が必要です。
となりです。
ペットはわれわれ獣医師に言葉で異常を訴えてくれるわけではないので、飼い主の皆さんを通じての情報が非常に重要です。それが的確な診断や治療につながりますので、ペットに対して注意深い観察を心掛け、早期発見に努めましょう。
くしゃみや鼻水の症状を示す代表的な感染性疾患は、猫の伝

食欲ないときは診察を

染性鼻気管炎とカリシウィルス感染症です。これらは混合感染を起こしていることも少なくなく、集団生活を送っている猫に多発します。感染した猫がウイルスを含む鼻汁などの分泌物を出し、他の猫が口を通して取り込むことにより感染します。
感染は年間を通して認められますが、寒さで免疫力が低下する冬期に来院が増加します。若

の開発が進んでおり、接種することはいくつかの感染性疾患が予防できます。また、万一、発症しても症状の悪化を抑えることができます。中には生命に危険を及ぼす怖い病気もあります。あなたのかわいいペットのためにも、適正なワクチン接種をお勧めします。

「いつも一緒 富山のペットたち



幼いときに伝染性鼻気管炎に感染し、角膜に白濁が残った猫。今も慢性的なくしゃみや鼻水に悩まされている。泉沢動物病院

齢の猫の感染が多いため、皆さんも目や鼻の周りが汚れた子猫を見掛けられたことがあると思います。

「ちは、毎月第一木曜日に掲載します。」

このような感染性疾患を防ぐには、ペット同士の無駄な接触を避け、快適な環境をつくってあげることが大切です。けんかや望まない交配など、接触の機会を避けるためにも、不妊手術をお勧めします。管理しきれない数の飼育は不衛生な環境になりがちですので、やめましょう。飼育環境の適正な温度管理(夏は27度、冬は23度程度が目安)や新鮮な水を与えること、栄養バランスの取れたフードを適正量与えることなどを心掛けてください。
近年、犬と猫の各種ワクチン